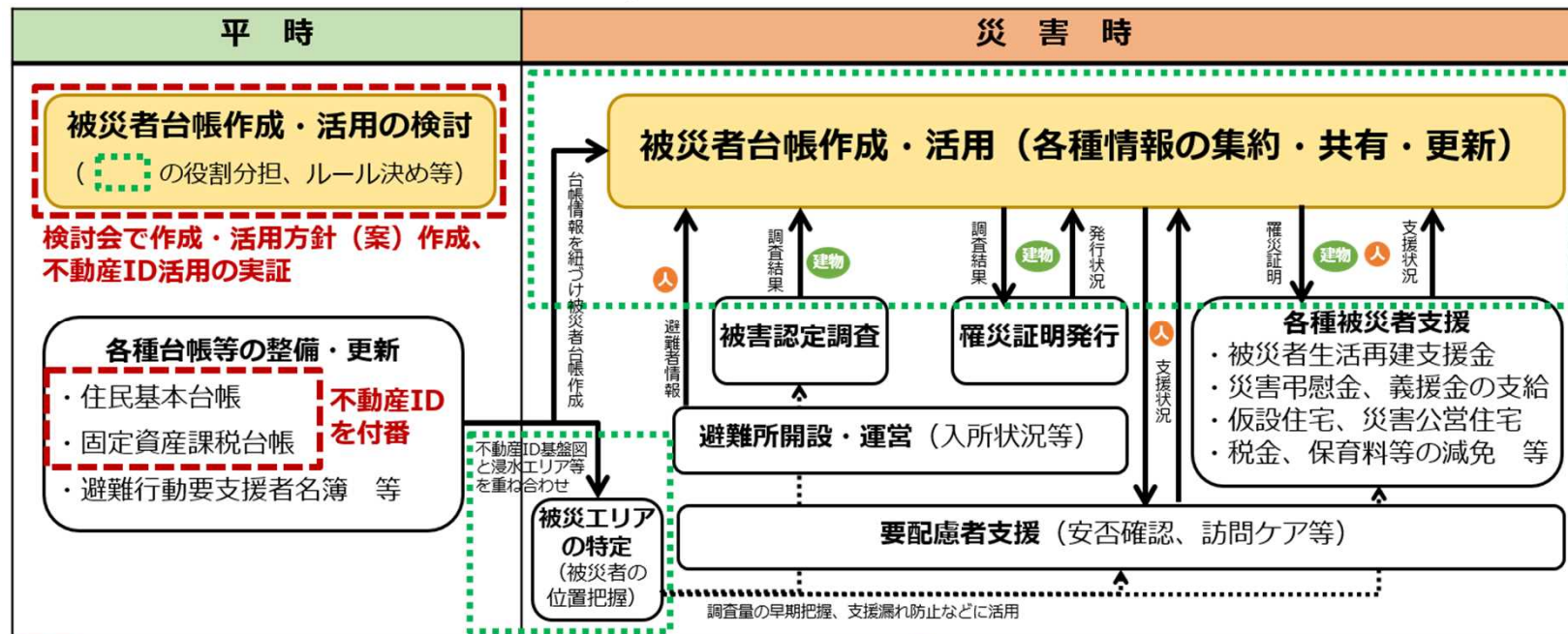


【防災ユースケース】不動産IDを活用した被災者台帳作成・活用の実証

災害時に被災者の情報を一元的に集約する被災者台帳は、迅速かつ効率的な被災者支援の実施に有用である。しかし、被災家屋の情報や住民の居住情報等の各種行政情報を紐付ける共通のIDが整備されていない自治体が多く、災害時において、必要な情報の集約・共有に時間を要することが課題となっている。

そのため、本ユースケースでは、兵庫県加古川市において、各種行政情報を紐づける共通IDとして不動産IDを活用し、効率的な被災者情報の集約・共有が可能であるかの検証を行う。また、不動産ID基盤図に紐付いた行政情報を活用して効率的に支援対象者を把握するなど、迅速な被災者支援につなげる不動産IDの有効性の検証及びニーズ・課題の掘り起こし等を行う。

平時・災害時の被災者台帳に関する全体イメージ及び本業務実施範囲



 : 本業務実施範囲

● : 人に関する情報 (避難状況、負傷・介護情報など)

● : 建物に関する情報 (被害情報 全壊・半壊など) ←不動産IDで管理

加古川市の概要①

兵庫県下最大の一級河川「加古川」が市の中央部を流れる都市

人口:256,931人
世帯:109,079世帯
総面積:138.48km²
(令和5年4月1日時点)



高御位山

加古川和牛



棋士のまち



伝統産業の靴下

鶴林寺



かこがわ名物 かつめし



加古川市の概要②

スマートシティのきっかけ

■ 市政課題

- 刑法犯認知件数(犯罪発生件数)が多い
- 市としての取組
 - ・ 町内会などが設置する防犯カメラへの補助制度に加え1,475台(各小学校区ごとに約50台)の見守りカメラを設置、運用
 - ・ 各地区でのタウンミーティングの開催や条例制定等プライバシーの保護に配慮した丁寧なアプローチがスマートシティ業界から注目されるようになった



加古川市の概要③



加古川市スマートシティ構想

基本理念

誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川

～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて～

スマートシティ推進の5原則

(1) 透明性とプライバシー保護 (Transparency & Privacy)

データの利活用にあたっては、市民の皆さんのプライバシーの保護に十分な配慮を行います。また、市の意思決定過程における透明性の確保に努めるとともに、設置する機器に対するプライバシーリスクの潜在的な影響や脅威を評価したうえで設置します。

(2) 安全・安心・回復性 (Safety, Security & Resiliency)

自然災害、不慮の事故、情報セキュリティなどによる障害が発生した場合でも、最低限の機能が維持しながら、早期に回復できる能力を確保するように努めます。

(3) 相互運用性とオープン性 (Interoperability & Openness)

ICT技術導入の際は、システム間において様々なデータに接続することが可能となる相互運用性を担保しながらエコシステムの実現を図ります。また、データが広く社会において適正に使用されるように、組織間の壁を意識せずデータ利活用が最大限に行われるように努めます。

(4) 公平性、社会的包摂、社会的影響 (Equity, Inclusion & Societal impact)

あらゆる人材が能力を最大限発揮し、やりがいを感じられるような社会を実現するために、サービスや機会損失を発生させず誰一人取り残さないように努めます。また、その社会への影響を評価し、市民生活の向上と環境保全に努めます。

(5) 運用面と財政面の持続可能性 (Operational & Financial Sustainability)

スマートシティの実現においては、運用面・財政面の両方から持続可能でより効果的・効率的な事業であることを確認しながら実装するように努めます。

スマートシティ推進の基本目標

基本目標1【市民】市民のQOLや利便性を向上するサービス

- ① いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続の実現
- ② 誰にでもやさしい窓口環境の実現
- ③ 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信
- ④ 安心して子育てをできるまちづくり
- ⑤ 高齢者にやさしいまちづくり
- ⑥ GIGA スクールの推進 (デジタル教育)
- ⑦ 行政情報の見える化

基本目標2【まち】都市機能の強化や都市課題の解決

- ① 快適に移動できるまち
- ② 安全・安心のまちづくり
- ③ 災害に強いまちづくり
- ④ にぎわいのあるまちづくり
- ⑤ インフラの整備及びメンテナンス

基本目標3【行政】デジタル行政の推進

- ① 情報のデータ化によるスムーズな窓口対応
- ② 最新技術による徹底した業務効率化
- ③ どんな時も業務継続を可能とする体制づくり
- ④ 多様なデータの利活用による新たな行政サービスの実現
- ⑤ スマートシティアーキテクトの育成



<https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/smartcity/29446.html>